

報告文献別一覽表

報告文献別一覧表(医療機器)(2005/12/1～2006/3/31)

番号	感染症 (PT)	出典	概要
1	HEV	Mem Inst Oswald Cruz, Rio de Janeiro 2005;100:117-122	E型肝炎ウイルス (HEV) 感染の血清学的な証拠が、本感染症が蔓延していないエリアにおいて、ヒトとヒト以外の動物で観察された。このことは、動物がヒトへのウイルス転移の重要な保有者でありうることを示唆された。
2	HEV	Journal of Medical Virology 2005; 76:341-9	日本に於けるE型肝炎ウイルスの伝播とE型肝炎の重症化に関する危険因子を明らかにするため、特に発症の多い北海道において、1996年から2004年の間で確認された軽症型(n=23)と重症型(n=9)の患者32例を対象にE型肝炎の臨床的及びウイルスの特徴を検討。HEVの人畜共通感染症が経路として食物伝播により発生し、HEV遺伝子型と基礎疾患の存在がE型肝炎の重症化に影響する事が、北海道でのE型肝炎の発生で重要な因子となったことを示唆した。
3	HEV	鳥取県衛生環境研究所 報 2005; 45:1-3	HEV感染状況を把握するために住民、ブタ、イノシシなどのHEV抗体保有調査を行った。住民のHEV抗体保有率は70歳代以上では16.7%、20歳以下では0%であった。ブタ血清における抗体保有率については地域により0～100%の偏差を示した。
4	HEV	Jpn Med Assoc J 2005;48:468-470	インドから帰国後にE型肝炎及びパラチフスを呈した症例が報告されている。
5	HEV	The Journal of infectious Diseases 2005;192:1166-72	英国において、1996年から2003年の間、186件のE型肝炎が血清学的に診断されている。これらの17症例(9%)が海外の旅行者とは関係なかった。患者は、55歳以上(56-82歳くらい)の男性である傾向があった(76%)。
6	HIV	WHO http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2005/unaidsworld/en/index.html	成人におけるHIV感染率は特定の国々で低減しておりコンドームの使用増加などの感染予防の変化が重要な役割を果たしたとする新たなエビデンスがあるが、新たな国連報告はHIV伝播における全体的な傾向は依然として増加しており、流行を減速させるためより一層のHIV予防の取り組みが必要とされることも示している。
7	ウエスト ナイルウ イルス	CDC-MMWR http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5506a2.htm	2005年、西ナイルウイルスのサーベイランス、予防、および管理活動を実施するための州および大都市・郡の保健局の能力を評価するため、Council of State and Territorial Epidemiologists (CSTE) はCDCなどからの援助を受け、50州および6つの大都市・郡の西ナイルウイルス計画の調査を行った。
8	ウエスト ナイルウ イルス	米CDC-MMWR	米国において、ArboNETを介して米CDCに報告された暫定的西ナイルウイルスサーベイランスデータの概要。
9	インフル エンザ	Clinical Infectious Diseases 2006; 42:14-20	ブタに曝露された複数のヒト集団について過去のブタ・インフルエンザウイルス感染のエビデンスを検討した。ブタへの職業的曝露により、労働者のブタ・インフルエンザウイルス感染のリスクが大幅に増大する。
10	トリイン フルエン ザ	Journal of Virology 2005; 79:10821-10825	ヒト感染症に関連するベトナムのトリインフルエンザウイルスH5N1型が、ブタに伝播したかどうかを判定するため、2004年にベトナム国内のブタがインフルエンザウイルスH5N1型に曝露した血清学的エビデンスを調査した。
11	トリイン フルエン ザ	Promed mail 24 July 2005	インドネシア当局は、同月に国内で初めてトリインフルエンザによる犠牲者となった同一家族3人が住む首都ジャカルタより、30KM程離れたTangerangに近い村で、トリインフルエンザに感染したブタ200頭を7月24日に焼却処分する予定である。

番号	感染症 (PT)	出典	概要
12	トリインフルエンザ	J Virol 79(16):10821-10825	ベトナムでヒト感染を伴ったH5N1型鳥インフルエンザウイルスがブタに蔓延していたか否かを判定するために、2004年のベトナムのブタにおいてH5N1型インフルエンザウイルスへの曝露を示す血清学的証拠を調査した。検査したブタ血清3,175検体中の8検体 (0.25%) は、ウイルス中和試験およびウエスタンブロット法を行った結果、2004年に分離されたH5N1型鳥インフルエンザウイルスが陽性であった。
13	トリインフルエンザ	Nature 2006; 439:248-9	トリインフルエンザ感染患者から分離したウイルス検体を解析していた研究者チームが、同ウイルスの遺伝子配列に3カ所の変異を確認した。変異のうち少なくとも2カ所は、トリインフルエンザがヒトに感染しやすいよう働く可能性が高いとしている。
14	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2005; 11:1664-1672	2004年1月にH5N1亜類型の高度病原性トリインフルエンザウイルスがタイで家畜と人間で最初に確認された。2005年も進行中である。
15	トリインフルエンザ	米国CDC http://www.cdc.gov/flu/avian/gen-info/facts.htm	2004年6月下旬以降、家禽におけるインフルエンザH5N1の新規アウトブレイクがアジアにおける数カ国（カンボジア、中国（チベット）、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、モンゴル、ロシア（シベリア）、タイおよびベトナム）から報告されており、これらのアウトブレイクは進行中と思われる。インフルエンザH5N1感染症はトルコ、ルーマニアおよびウクライナの家畜においても報告されている。インフルエンザH5N1のアウトブレイクは中国、クロアチア、モンゴルおよびルーマニアの渡り鳥においても報告されている。
16	トリインフルエンザ	英HPA CDR Weekly	WHOはAnkaraにあるトルコ国立インフルエンザセンターが同国で18例目のH5N1インフルエンザヒト症例を確定したなどの報告。
17	トリインフルエンザ	WHO Epidemic and Pandemic Alert and Response 2/2/2006	2003年から2006年2月2日までの7カ国（カンボジア、中国、インドネシア、イラク、タイ、トルコ、ベトナム）における発症例は161、うち死亡例は86。
18	ブタ連鎖球菌	OIE Disease Information Vol. 18-No. 31(5 August 2005)	四川省でブタ連鎖球菌に感染したブタ319頭が死亡、6736頭が焼却処分された。複数の研究所にて細菌分離とバクテリアの培養、顕微鏡検査、蛍光抗体試験、PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）を実施した結果、いずれも陽性反応を示した。
19	ブタ連鎖球菌	WHO Communicable Disease Surveillance & Response : Outbreak associated with Streptococcus suis in pigs in China 3 August 2005	中国衛生部はブタ連鎖球菌Streptococcus suis 感染のブタでの集団発生に関連して発生したヒトの感染を206例と報告。これらのヒト症例のうち、38例が死亡、18人の患者が重症としている。実際には全ての症例は、中国で最も多くブタが飼育されている四川省で発生しており、同省では同じ時期にブタの間で集団発生が検知され、ブタ連鎖球菌が検出されている。
20	ブタ連鎖球菌	Chin J Prev Med 2000; 34:150-2	ブタ連鎖球菌感染性症候群の臨床における症状表現は主に、連鎖球菌トキシックショック症候群及び連鎖球菌性髄膜炎型症候群であった。患者の血液及び脳脊髄液中より各々3株の連鎖球菌株を分離し、成長特性、形状特性、生化学的特性、菌体脂肪酸分析、血清凝集などの一連の評価を行った結果、この6株は、全てブタ連鎖球菌II型であることが判明した。
21	ブタ連鎖球菌	http://idsc.nih.gov/jp/disease/streptococcus_suis/050816suis.html	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト387例が死亡。18人の患者が重症。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。
22	ブタ連鎖球菌	http://forbes.com/work/feeds/afx/2005/06/22/afx2105052.html	四川省においてブタ647頭がStreptococcus suis感染により死亡。感染症は2005年6月下旬に発生し、7月20日頃ピークに達し、急激に減少した。新規症例は8月6日以後発生していない。感染症はStreptococcus suis 2型が原因であった。

番号	感染症 (PT)	出典	概要
23	ブタ連鎖球菌	http://www.forth.gov.jp/hpro/bin/hb2141.cgi?key=20050812%2D0060	四川省、死者39名がでて致死的なブタの感染症による8例目の患者が香港で発生した。健康保護センター (CHP) と保健局は、78歳女性が、8月8日に病院に収容された際に、強毒性のブタ連鎖球菌感染と診断されたと報告。
24	ブタ連鎖球菌	http://idsc.nih.gov/jp/disease/streptococcus_suis/050816suis.html	四川省でブタ連鎖球菌感染が集団発生。2005/8/16現在215例発生しヒト39例が死亡。発熱、全身倦怠、嘔吐、嘔気、多くの例でこれに引き続く髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、意識障害など、様々な臨床兆候を呈する。
25	ブタ連鎖球菌	WHO (http://www.wpro.who.int/media_centre/news/new_s_20050816.htm)	四川省でブタ連鎖球菌の集団発生あり。中国衛生局の調査でStreptococcus suisに関連したものであるとの結論。感染者は、ほとんど男性で農業従事者、食肉取扱いに携わった人々。ヒト採取の検体より血清2型のStreptococcus suisによる感染を確認。ヒト-ヒト感染の証拠はなし。
26	ブタ連鎖球菌	OIE Disease Information (9 September 2005)	ブタ合計647例がStreptococcus suis感染症により死亡した。感染症は2005年6月下旬に発生し、7月20日頃ピークに到達し、急激に減少した。感染症はStreptococcus suis 2型が原因であった。検査の結果、分離株の病原性は、過去に分離された菌と大きな差はなく、また遺伝子的変化は見られなかった。
27	ブタ連鎖球菌	WHO/WPRO News, 16 August 2005	最近報告された四川省でのブタ連鎖球菌の集団発生の調査の終了に向けて、中国衛生部はこの集団発生に関して、WHOと更に細部に渡る情報共有を行った。
28	ブタ連鎖球菌	http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html	四川省でブタ連鎖球菌が集団発生。2005/8/3現在206例発生し、ヒト387例が死亡。18人の患者が渋滞。最初のヒト症例は6月の終わりに四川省資陽市において発生。報告されたほとんどの症例が成人男性の農夫。地元の臨床医によって報告された症状には、高熱、全身倦怠、嘔吐が含まれ、これに続いて髄膜炎、皮下出血、中毒性ショック、そして重症例には意識消失がある。潜伏期は短く、病状の発展は急速である。
29	ブタ連鎖球菌	OIE Disease information http://www.oie.int/eng/info/hebd/AIS_54.HTM	四川省においてブタ647頭がStreptococcus suis感染により死亡。感染症は2005年6月下旬に発生し、7月20日頃ピークに達し、急激に減少した。新規症例は8月6日以後発生していない。感染症はStreptococcus suis 2型が原因であった。
30	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英SCIEH http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2006/0604.pdf	2005年12月末までに英国において変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) が累計159例報告され、そのうち153例は死亡した。英国外では、フランスにおける症例数は15例と少ないままであり、アイルランドにおいて4例、米国において2例、カナダ、イタリア、日本、オランダ、ポルトガル、サウジアラビア、およびスペインにおいて各々1例である。
31	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英SCIEH http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2005/0536.pdf	各種の伝達性海綿状脳症が食物連鎖に入るのを防ぐために計画された規制の将来的に起こりうる改正概要の記載「TSEロードマップ」が欧州委員会により発表された。
32	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ウイルス 2005; 55:45-54	BSE の感染拡大防止と撲滅には、BSE スクリーニング/サーベイランス、特定危険部位の除去、飼料規制の継続が必要である。また、輸血用血液、医薬品原料などのプリオン汚染を摘発して排除するためには、高感度プリオン検出技術の開発が望まれる。さらに、人プリオン病の治療法確立も重要な課題である。

番号	感染症 (PT)	出典	概要
33	感染	Clin Microbiol Infect 2006; 12:69-74	ノロウイルス感染は、短い持続期間の自己限定の病気とされていたが、大学病院で院内感染発生した。
34	感染	OIE Disease Information Vol. 18-No. 2 (8 July 2005)	Hernando Siles 県Monteagudo地域のChuncusla村の飼育農家で、オーエスキー病が4月23日に再発生した。その後5月5日にその事実が確認された。オーエスキー病の疑いがあるブタ4,997頭の内、213頭が死んだ。僅か15日以内に158頭の子ブタが死んだ。
35	感染	OIE Disease Information Vol. 18-No. 27 (8 July 2005)	オーストラリア国内2箇所 (サウスオーストラリア、ニューサウスウェールズ) のブタ小屋で発生したとされる、離乳後多臓器性発育不良症候群であるか否かの調査は、州政府の獣医によって現在進行中である。
36	感染	J Hosp Infect 2006; 30:1-6	廃棄物に存在する微生物からの感染、特に血液媒介ウイルスは最も重大脅威である。臨床廃棄物の管理の簡素化を助長する有力なコスト推進要因をつくることによって、ヨーロッパの危険廃棄物指針に基づく英国法律は、CDCの世界共通/標準予防措置と衝突する。
37	寄生虫感染	米国サウスカロライナ州保健環境管理当局ホームページ http://www.scdhec.gov/news/releases/2005/200510/nr10EEE1stHCas05.htm	東部ウマ脳炎 (EEE) にMarlboro郡在住の老人が感染し、2005年のサウスカロライナ州の東部ウマ脳炎ヒト患者第1例目となった。2005年はサウスカロライナ州でEEE感染が確認された動物と蚊の数が増加している。
38	狂犬病	ProMed Mail 20060102-0040 http://www.forth.go.jp/hpro/bin/hb2141.cgi?key=20060102%2D0040	Rogers郡保健部は2005年12月31日に、狂犬病に感染したウシからの生ミルクを飲用して狂犬病に暴露された危険性があると同定された住民の治療を開始するため、特別診療所を開設。
39	結核	ProMed mail 13 July 2005	Bodmin近郊の養ブタ場で飼育されていたブタ2頭と子ブタ数頭が屠殺場に送られた。その後の検査で、牛結核に罹患していた事をCornish畜殺場の所有者が明らかにしたとBBC Newsが伝えた。獣医学局では、牛結核はブタでの届出疾患では無いため、これ以前の牛結核症例の記録は無い。BBC西部環境通信員によれば、ブタの牛結核症例は人間への健康被害の危険性は無く、今回は非常に稀なケースであると伝えている。
40	口蹄疫	ProMed Mail 6 July 2005	ヴェトナム南端のCa Mau省で、270頭近いブタが口蹄疫により死亡した疑いがあると、7月5日に地元紙が報じた。2005年6月に死亡した268頭のブタから採取した19の検体からは、口蹄疫に感染していた事が示されたとQuan Doi Nhan Dan紙が報じた。過去数ヶ月間に同地域内において、1840頭近くのブタが典型的な病気に感染し、口蹄疫の疑いも持たれている。地元の獣医たちは、52000頭以上ものブタにワクチンを接種したが、効果的な治療には至っていない。
41	口蹄疫	ProMed Mail 12 oct 2005	ブラジル当局は、10月8日に口蹄疫の流行が確認された地に隣接するMato Grosso do Sul州で、第二の口蹄疫流行の可能性があると調査している。ブラジルの専門家は、最初の口蹄疫流行地から半径25 km以内にあるJapora村で、FMDに似た症状を呈する動物を検知した。
42	口蹄疫	Office International des Epizooties Diseases Information 2/2/2005	Mato Grosso do Sul州及びParaná州にて2005年9月26日より発生。牛32,489頭、ブタ511頭、小家畜652頭を処分した後、2006年2月1日の報告時点での感染例は確認されていない。
43	細菌感染	OIE Disease Information Vol. 18-No. 26 (1 July 2005)	Nandaime地域の養ブタ場にて再びブタコレラが発生した。コレラの疑いがあるブタ385頭の内105頭が感染し、75頭が死んだ。DGPSA中央研究所にてELISA (酵素免疫測定法) 及び、PCR (ポリメラーゼ連鎖反応) を実施した結果、いずれも陽性反応であった。PAV-250ワクチンを接種中である。

番号	感染症 (PT)	出典	概要
44	細菌感染	Pediatr Infect Dis 2005; 12:1099-1103	2001年8月、R. picketti菌血症の集団発生がカルフォルニアの病院のNICUで起こった。発生の最有望な原因は、汚染されたベリン・フラッシュであった。
45	細菌感染	J Food Prot 2006 ; 69:22-6	Campylobacter Spp. の抗菌性のパターンを決定するためにブタ、牛肉と豚からの分離を調べた。ブタ由来分離株は、テストされた10種の抗菌物質のうち7剤へ最も大きな抵抗性を持っていた。この結果は、いろいろな抗菌剤、とりわけシプロフロキサシと、エリスロマイシンへのCampylobacterの抗菌物質抵抗性の存在を確かめた。
46	コレラ	OIE Disease Information Vol. 18- No. 28 (15 July 2005)	1918年以来、Western Cape県Worcesterにある2つの養ブタ場で再びブタコレラが南アフリカで発生した。6500頭の内、対象となった1110頭全てが死んだ。PretoriaにあるOnderstepoort動物研究所にてELISA(酵素免疫測定法)を実施した結果、陽性反応が確認された。サンプルはイギリスのWeybridgeとドイツのHanoverにあるOIE関連の研究所に送られた。
47	コレラ	OIE Disease Information Vol. 18- No. 32 (12 August 2005)	Ogun州のAbeokuta地域の3箇所の養ブタ場にて、罹患した疑いのあるブタ229頭の内、65頭が死んだ。Ibadan大学の獣医訓練病院で、予備検査が行われた。Vomにある国立中央獣医研究所では、最新の研究実験が行われている最中である。アフリカブタコレラの根絶、隔離を行った。
48	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2005;11:694-698	スペインにおけるSalmonella entericaのDerby血清型の遺伝的多様性について、パルスフィールドゲル電気泳動法 (PFGE) により検討した。
49	水疱性口内炎	OIE Disease Information Vol. 18- No. 33 (19 August 2005)	米国コロラド州、モンタナ州、ニューメキシコ州、ユタ州、ワイオミング州でのウマの水疱性口内炎のアウトブレイク報告。
50	トリパノソーマ	Kinetoplastid Biology and Disease 2005; 4:1-7	トリパノソーマはサハラ砂漠以南のアフリカでの牧畜の主要な問題である。そして、それが風土病である36の国の農業開発を制限している。人間では、治療していない場合、アフリカ睡眠病は致命的であり、深刻な罹病率を引き起こす。人間と家畜の両方の感染についての報告。
51	ニパウイルス	科学 2005; 75:1352-1355	1998年から99年にかけて、激しい呼吸器症状や脳炎等を示す265人の患者と107人の死者(致死率40%)を出したニパウイルス感染症は、マレーシア養ブタ地帯で発生した。研究の結果、自然宿主は果実や花の蜜を食べるオオコウモリであり、オオコウモリからヒトへの直接感染例は認められなかったことから、ブタを介してヒトに感染する重篤な感染症と結論づけられた。
52	ハンタウイルス	Indian J Med Res 2005; 122:211-215	南インドにおいてはハンタウイルス感染の報告これまでに無いが、血清学的な調査の結果、ヒトへのハンタウイルスの感染が認められたことが報告されている。
53	炭疽	Promed mail 1 September 2005 5 September 2005	Rostov地域Zavetninskiy地区にある獣医学研究所の代表者がブタの死骸から炭疽菌を検出したと報告した。